



【他人によって様々な試練に巻き込まれる時】

聖書箇所：創世記50章20節/暗唱聖句：ローマ人への手紙8章28節

説教者：鄭南哲師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！コロナ禍の緊急事態宣言の延長が続いている中一週間もみんなお変わりなくお元気でしたか。人生の中で思わぬトラブルや試練に会って、苦しんだことのない方は一人もいらっしゃいないと思います。特に、人生の中で他の人が原因でトラブルに巻き込まれた時、私たちはどう反応したらよいか迷ってしまう時が時々あります。家族に拒絶された時、親しい友人に裏切られた時、同僚から根も葉もないことを言われた時、私たちはいったいどうしたらよいのでしょうか。

< 1. ヨセフの人生 >

旧約聖書の中は、他の人が引き起こしたトラブルによって苦しみを受けた体表的な人物と言え、迷いなくヨセフだと言えるでしょう。創世記37章から50章にかけて、神様はヨセフの話の詳細に記しながら、人生の中で、ヨセフのような他の人によって、試練に直面し、苦しめられている時にどう対応して行くべきなのか教えて下さっています。

みなさんもお存じのように、ヨセフは12人兄弟の中11番目でした。

兄弟たちが互いに競争意識を燃やしていましたが、特に上の兄弟たちは、ヨセフに強いやきもちを抱いていました。なぜなら、ヨセフが特別に父親であったヤコブの寵愛（ちょうあい）を受けていたからです。

その問題が頂点に達した時、ヨセフの兄たちはヨセフを穴に投げ落として殺そうと図りました。ちょうど、その時に、通りかかったエジプトの商売人にヨセフの兄たちはヨセフを殺すより、売ってしまいます。ヨセフは自分の意志と関係なく、兄弟たちによって奴隷としてエジプトに連れて行ったのです。

ヨセフは自分が家から、無理やりイスラエルから離れられ、遠い外国のエジプトにいたこと、そこには一人の知人もおらず、言葉も分からず、しかも、不本意ながら奴隷になるしかありませんでした。

しかし、ヨセフの人生の試練はそこで終わったわけではありません。他人により、さらに悪いことに、ヨセフを奴隷として買い取ったエジプトの主人の妻に言い寄られ、性的な誘惑を何度も受けても、ヨセフがそれを拒むと、彼女は感情的になり、ヨセフに自分が姦淫されそうになったと嘘の訴えを起こしたのです。

自分を守る力がなかったヨセフは彼女の嘘のうたえにより、牢屋に入れられてしまいました。彼は人に裏切られた人生の連続で孤独で惨めで心には人々に対する傷だらけにだったはずです。

「なぜ私が。どうして僕が。」と言う権利のある人がいるとすれば、ヨセフこそ、その人だったのに間違いないと思います。みなさんの中には、今までの人生の中で「どうして、私が」とまったく自分が招いてもなかったのに、思わぬ他のだれかによって、こんなことが自分にまで起こって苦しんでいるのかと感じたことはないでしょうか。

けれども、このような悲劇的な出来事から何年も経った後、兄弟たちとの再会を果たし、言葉を交わした時の態度はどうだったのでしょうか。一連の出来事を思い出しながら、ヨセフは兄弟たちに向かってこう言いました。

創世記50章20節「あなたがたは私に悪を謀(はか)りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。それは今日のように、多くの人が生かされるためだったのです。」

つまり、ヨセフはこう言いたかったのでしょうか。

「お兄さんたち、あなたがたが私に悪意(あくい)でやってはならないことを犯しましたが、神様はその出来事さえも用いて、私の人生、お兄さんたちの人生、そして多くの人たちの人生を益としてくださったのです。」と。

## < 2. ヨセフの人生の中で見出した3つの大切な真理 >

ヨセフはなぜ、ここまで持ちこたえることができたのでしょうか。それはヨセフが、自らの試練の人生の中で見出した3つの大切な真理に基づいて生きていたからであることが聖書を通して教えられます。その真理に助けられて、ヨセフは連続の試練の中、悲劇的な状況の中でも耐え忍び、思わぬ人生の逆境を乗り越えることができたのです。

### ①神は今自分が体験しているすべてをご覧になり、心に留めておられる事

ヨセフは続く試練の中でも、自ら見出した大事なその真理の一つ目は、神様は、私たちが経験することをすべてご覧になり、心に留めておられるということでした。それは、ヨセフの人生にはっきりとした形で表れています。神様が自分の人生に起こっていることをすべて見ておられ、心に留めておられるということを、ヨセフは決して疑いませんでした。ヨセフの身に危険や問題が迫るたびに、39章だけで3回に渡って繰り返されている重要な一文があります。「しかし、主はヨセフとともにおられた。(創世記39章2、21、23節)」すべてが悪い方向に向かっている時でさえ、主はヨセフとともにおられたのです。

### ②神はすべての人々に選択の自由を与えられた事

ヨセフが学んでいた二つ目の真理は、神様は、すべての人々に選択の自由を与えられたということでした。神は全ての人を、人形やロボットのように、何の意思もなく、ただコントロールされる存在として造られたわけではありません。神様はすべての人々に選択の自由意志を全ての人々に与えられました。ですから、もし私たちが神様の御心に反する選択をしたとしても、神様は私たちにその御心を押し付けることはなさらないお方であることをヨセフは認めていました。私たちは、自ら問題を招いたのにもかかわらず、それがあたかも神様の責任であるように、神様を恨んだり、攻めることがよくあります。

神様が御自分の意思で行われたのではない多くのことについて、私たちは神様を責めている場合が実は多いのではありませんか。

大きな事故、悲劇的な出来事、様々なトラブル、病、危機などそれらを目にすると、私たちは、それが神の御心だったのだなどと、あたかもそれが霊的であるかのような言い方をします。

まるで神様が失敗や悲劇を計画的に起こし、楽しんでおられるかのような言い方で、神を恨んだりもする時が今まで皆さんの人生の試練に巻き込まれた時の反応だった時はありませんか。

当然のことですが、神の御心がいつもこの地上で行われているわけではありません。神様は私たちの人生に対して御心を持っておられると同時に、私たちに自由意志を与えられました。私たちが自分で決めた道を進む選択をした時には、神様は御自身を制限させ、待てておられます。

神様は、私たちが自分の選択によって過ちを犯し、自ら問題を呼び込んでしまう自由をも認め、許しておられるのです。ですからその意味は、自分以外の人々にもそれぞれ選択の自由がえられていますから、彼らの犯した過ちや間違った決断によって、私たちが傷つくことも当然いくらでもあるわけで起こりうることであります。

ヨセフの兄たちは故意にヨセフを殺そうとし、陥れようとしてしました！これ自体は罪ですが、神は人を繯り人形のように造られなかったのです、その事が起こるのを赦されたのです。

### ③神が事の成り行きすべてを究極的に治めておられる事

ヨセフが他人によるトラブルに巻き込まれている人生の中で見出した三つ目の真理は、神様は、事の成り行きすべてを究極的にコントロールしすべてを治めておられるということでした。

神様は、私たちのすべての過ちと他の人々が私たちに対して犯したすべての罪を取り扱われ、それらを好転(こうてん)させ、悪いことを良いことへと変えてくださるお方であることをヨセフは体験し、知っていました。

たとえ、最悪な状況でさえ、神様は私たちのために良きものへと変えることがおできになります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！時には自分の願い通りにならず、思わぬトラブルに巻き込まれ人生がめっちゃくちゃになっていると感じる時でさえも、最終決定権を握っておられるのは神様であることを信じていますか。ヨセフは直面した思わぬ混乱状態の中であっても、最終的に何を起こすかすべてを治め、コントロールし、決定されるのは神様ご自身であられることを信じ、体験したことが分かります。

ヨセフについて考えて見ましょう。危(あや)うく殺されかけ、奴隷として売られ、姦淫罪で訴えられ、牢屋に入れられてしまったヨセフの人生は、下り坂をころげ落ちるような人生でした。

しかし、神様はそれらの悲劇的な出来事を取り扱われ、ヨセフの思いをはるかに超えた状況へと変えてくださったのです。

神はヨセフがその苦しい牢獄(ろうごく)に入られた時、エジプトの王パロの右腕として働いていた男性と出会わせて、親しくなるように導かれます。この男性が再びパロの元で働き始め、パロが見た夢のことを聞いた時、ヨセフがパロの夢を解き明かすために宮殿に招待されました。そこでヨセフはこう言いました。「王様、神様は夢について次のように仰せられます。その意味は“これから7年間は農作に恵まれるが、その後7年間は飢餓になります。そのための備えをするように現した夢なのです。”

エジプトのパロ王はヨセフに心が動かされ、非常に感銘を受け、彼をエジプト全土を総括する副司令官へと一気に躍(おど)り出しました。こうしてヨセフは、エジプトとイスラエルを含む近隣諸国の多くの人々を飢餓から救うことに大いに用いられました。

神様は事の成り行きをごらんになっておられますが、私たちに選択の自由を与えておられるので、普通の時には私たちの自由意志に反して介入されることはありません。神様はご自身を制限しておられるのです。

しかし、もし私たちが神にゆだねるなら、神様は、私たちの間違った選択や私たちの身に起こった悪い出来ことさえも良いものに変えてくださり、最終的に益として下さるのです。

愛する信仰の家族のみなさん！神にゆだねるとは、どんな状況の時でも神に信頼するという事です。

ヨセフの人生を通して教えられる大切なことですが、この世のすべての人のために、神様はすべてを益として下さるのではないということです。

人生を神様に明け渡し、一つ一つの出来事を神様にゆだねていく人のためにだけ、神様はすべてのことを働かせて益として下さるのです。私たちが自分で握り締めている限り、神様はすべてのことを働かせて益とすることがおできになりません。ですから、私たちは自分の苦しみを神様にゆだねる必要があります。

良い時にも、試練の時にも、いつも、主に信頼していたヨセフは、人生の終盤で「あなたがたが私を傷つけるためにしたことを、神様は益としてくださった。」と証しすることができました。神様がヨセフの状況を益とすることがおできになったのは、たとえ今の状況が理解できなくても、彼が主に信頼して、あきらめてしまわなかったからでした。

### <3. 思わぬ人生の試練やトラブルに巻き込まれた時の実践事項>

みなさんは最近いかかでしょうか。コロナ禍が続く中で思わぬ何か、誰かによる試練の中にいらっしゃる方はいませんか。あるいは、他の人が引き起こしたトラブルの被害者であるかも知れません。ここで、被害者としてヨセフが、試練の中でどのような態度を実際取ったかを見てみましょう。

#### ①まず、ヨセフは、自己憐憫に陥りませんでした。

仮に、問題や試練に襲われたとしても、人生の貴重な時間を自己憐憫に費やしている暇はありません。今日自己憐憫は、うつを引き起こす大きな原因の一つでもあります。愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみ

なさん！深刻な問題を経験する時や自己評価(セルフイメージ)が低い人の場合、たいてい自分自身を否定し、さげすみ、しまいには哀れむようになります。しかし、ヨセフはそうしませんでした。自分を責めず、今おかれている危機的状況の責任が自分にはないことを、冷静に見分け、受け止めようと努めました。

愛するみなさん！もし、今船に乗って航海(こうかい)の最中なのに、嵐に遭遇(そうぐう)したら、どうしますか。なぜ自分に今こんなことが起きたのか。自己憐憫に陥っているうちには何も問題解決にされないことを覚えておきましょう。正面から風を受け止めながらも、切り抜けるしかありません。船体(せんたい)の横から風を受けると転覆(てんぷく)してしまうからなんです。

私たちの人生も同じです。たとえ人生の嵐に遭遇したとしても、ヨセフのように、正面から嵐を受け止めることが、私たちにできる最善の策(さく)であります。

もし、今日みなさんの中で試練の中で落胆し、「なぜ、どうしてこんなことが私に起こったのか。」と自己憐憫に陥っている時なら、なるべく、落胆している時に大切な大きな決断をしてはならないことを覚えておいてください。私たちは落胆すると、「もうやめてしまおう」とか、「別の場所に移ろうとか、転職しよう」とか、あるいは、「縁を切ろう、離婚の申し立てをしよう。」というような今までの事実より、感じていることがすべて真実かのように感情的になりやすく、極端なことばをしばしば口にしやすくなります。しかし、自己憐憫に陥って落胆している時の感情は、大体まったく当てになりません。正確な判断力をうしなっていて、的外れな歪んだものの見方しかできなくなっているからです。ですから、そのような時には、大切な決断をしてはいけません。その代わりに、正面から嵐を受け止め、自己憐憫に陥らないように気をつけましょう。

すべてが悪い方へと向かっていた時の、ヨセフの生き方に見られるもう一つの特徴は、

**②ヨセフはだれかに恨みを抱かなかったことです。**

何年も経ってヨセフが兄たちに再会した時のことです。兄たちは穀物を手に入れるためにエジプトにやって来ました。彼らはエジプトの副司令官であるヨセフの前に進み出、頭を下げた時、それがまさか自分たちが殺そうとし、売ってしまった弟ヨセフであることにまったく気づきませんでした。

ヨセフが兄たちに自分を明かした時、兄たちは、ショックを受けると共に恐れを抱きました。目の前に、かつて自分たちが殺そうとした弟がいて、今やその弟は自分たちをどうにでも出来る地位に付いていたのですから。しかし、ヨセフは兄たちを赦しました。ヨセフは、「恨みという余計なお荷物のために、人生の貴重なエネルギーを費やす価値はない」としっかり線を引いたことを知っていたのです。

愛するみなさん！もし、だれかを恨みたいという誘惑がある時、私たちはどうしたら、良いのでしょうか。

そのつらい思い、傷ついた心を主にゆだねることです。ヨセフはそうしました。

ヨセフは、神様への信仰と希望を持ちつけ、最終的には神様がすべてを働かせて益としてくださることを信じて信仰に立ち続けました。

みなさん！我々の人生の物事がうまくいかないときがあります。特に今のようなコロナ禍の長期化が続いている中まさにその真っ最中かも知れません。色々制限されたり、自分が願っている通りに、思い通りならず、断れる時も多くあるかも知れません。

しかし、私たちは最も必要としているお方を拒絶(きよぜつ)してしまう時がありませんでしたか。

そのお方とは、主イエスキリストご自身のことです。

問題が起こると、我らはよく「神様、なぜあなたはこのことがおこるのを許されたのですか。」と。

まるで、それが神様の責任であるかのように、神様にたて突こうとします。けれども、神様はどうしようもない

状況をも益としてくださいます。だれかがみなさんを破滅に追いやるために利用した状況でさえ、神様はみなさんを建て上げるために用いることができになります。

十字架は、人が考え出した最悪の罪の究極（きゅうきょく）の見本でしたが、神様はそれさえも益としてくださり、人類の祝福のためにイエスキリストの贖いを通して用いられたのです。

神様は、十字架を復活に変えることを心から望んでおられるのです。神様は最悪の出来事から、最善を引き出すことができになります。

ヨセフの逆境(ぎゃっきょう)の中勝利を得た一番大切な態度は、どんな時にも自分自身に向かうの神様の計画と約束を忘れなく、握っていたことです。

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。(ローマ人への手紙8:28)」

これはヨセフの人生の態度をよく証ししてくださる御言葉ではないでしょうか。今週の御言葉にもなりますが、ぜひこの御言葉を暗記したり、覚えておいてください。

神様は今私たちが直面している問題よりも偉大なお方です。もちろん、苦しみの時を過ごしている途中には、神様がそこにも働いておられることを理解するのは我らにとってはとても難しいかもしれません。しかし、後になって振り返ってみると、事態がよりよく理解できるようになるでしょう。あの時、神様が何をしておられたのか、そして、その出来事をどのように神様が用いて下さったのか分かるようになると思います。

この神様を約束、御計画が信じ、分かって来ると、私たちは過去につらい思いをさせられた相手に本文20節のあのヨセフのようにこう言えるようになると思います。

「あなたがたは私に悪を謀(はか)りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。それは今日のようにして、多くの人が生かされるためだったのです。」とですね。

自分の人生をイエスキリストにゆだねたからといって、すべての嵐が取り去られるわけではありません。けれども、確かに主イエスキリストは、嵐を乗り切るための勇気と力を、最善の知恵も与えてくださいます。

愛するクリスチャンプレイズの全信仰の家族のみなさん！

何が起こっても、神様の自分に向かうご計画と祝福の約束を信じる人は、問題を自分で握り締めている限り、問題がもっと悪化になってしまうことを認めます。ですから、自分より神様が働かせるように人生を神様に明け渡し、ゆだねることによって、神様がすべてのことを働かせて益として下さるのを信じます。

また、今年中にも自分が招いてしまったことではなく、思わぬ他の人々によって苦しめられ、迷いながら、どうしてもできなく、いら立っている時は人と関わりながら生きている為、いくらでも起きりうるでしょう。しかし、その時こそ、7千以上かかっている神様の約束の御言葉を使いましょう。神様からこんな素晴らしい御言葉、御約束を持っていても、実際に使わなければみなさんの人生に何も役にたちません。今日もみなさんに人生に与えられているみなさんの自由意志を用いて、もう一度神様の方に方向転換しましょう。そして人生の危機にぶつかるたびに、人にではなく、もり徹底的に主に明け渡し、ゆだねて、神の祝福に変えていく愛するクリスチャンプレイズの全神の家族となりますように心からお祈り申し上げます。アーメン！